「伝える」ということ

中沢中学校　野上　陽生

僕は今、「平和」な日々を過ごしている。あなたは今過ごしている日々を「平和」だと感じたことがあるだろうか。おそらく多くの人はあまり意識したことがないことだろう。実際、僕も今回の作文を通して初めて、今まで過ごして来た日々が「平和」であるということを実感した。そもそも、「平和」とは一体何なのか。「戦争がないこと」だろうか、それとも「毎日が楽しいこと」だろうか。一概に平和といっても様々な捉え方があるだろう。その中でも僕は、「平和」とは「当たり前の日々がずっと続くこと」なのではないかと思う。

僕は毎日、当たり前に朝起きて朝ご飯を食べて、支度をして学校に行く。そして当たり前に学校で勉強したり部活をしたり、友達と話したりする。学校から帰ってきたあとも当たり前に夜ご飯を食べて、お風呂に入って、温かい布団で眠る。きっと僕以外の多くの人もそれぞれの「当たり前」な日々を過ごしていることだと思う。しかし、僕たちが過ごしている当たり前な日々を過ごすことができない人達が世界にはたくさんいる。具体的な例を挙げるならば、ロシアによるウクライナ侵攻だ。２０２５年４月１７日時点で、戦争から世界各地に逃れたウクライナの避難民は６０１万７，８００人にものぼる。他にも、徴兵され、戦地へと送られる人、家族や大切な人と離れることになった人なども大勢いる。これだけの人々が理不尽に「当たり前」を奪われているのだ。ところが、最近はあまりニュースにも載らなくなり、僕たちがこの出来事について触れることも少なくなってしまっている。広島・長崎の原爆や第一次・第二次世界大戦などにおいてもそうだ。原爆では約２１万人の人が犠牲になり、現在も約２５万人の被爆者、そして後遺症や差別に苦しむ人々が数多く存在する。第一次世界大戦では約２，０００万人、第二次世界大戦では５，０００万人以上の人々が犠牲になった。実際に僕の祖父も戦争を経験したという。アメリカ軍からの機銃掃射を受け、大人に連れられて畑の中を逃げ惑ったそうだ。わずか３歳の頃の話だ

が強く記憶に残っていると祖父は言っていた。原爆を含め、「戦争」というものは人の心身を深く傷つけ、苦しめ続けるものである。それなのに、僕たちは徐々にそのようなものに触れる機会が失われていってしまっているように思う。また、実際にそれらを経験したという人も最近は減ってきつつある。戦争や原爆は二度と繰り返してはならないものだ。しかし、知らなければ繰り返し、再び多くの人が傷つくことになる。だからこそ、戦争や原爆の脅威を悲惨さを自ら学び、伝えていくことが必要だと思う。

　僕たちが行動をすることで今起きている争いや貧困を解決することはとても難しいことである。だが、それぞれが「知り」「伝える」ことで二度と繰り返さないようにすることはできるはずだ。全ての人が「平和」で「当たり前」の日々を送ることができるよう、僕たちは伝えていかなければならない。